

第75次印旛地区教育研究集会
第一部会安全教育研究部提案資料

学校教育活動全体を通じて、児童の安全意識を高める取組
～教科等の安全教育、日常的・定期的な安全指導の実践～

佐倉市立白銀小学校

鈴木 勉

山辺 有我

1 研究主題

学校教育活動全体を通じて、児童の安全意識を高める取組
～教科等の安全教育、日常的・定期的な安全指導の実践～

2 主題設定の理由

文部科学省『第3次学校安全の推進に関する方針』（2020）では、「学校において、児童生徒等が生き生きと学習や運動等の活動を行うためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが最優先されるべき不可欠の前提」と示され、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を継続的に身に付けておくことが求められている。

学校安全の内容は、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の各領域を通じて、「安全教育」、「安全管理」、「組織活動」という3つの主要な活動から構成されている。

本校では、生活安全と交通安全については、事故を未然に防ぐ予防的指導に重点を置き、災害安全については、災害が発生した場合の対処的指導、訓練に重点を置いて、計画的・組織的に安全教育を実施している。

本校は幸いにして、ここ数年間、命に係わる事故や重大事件は発生していない。しかし、児童の日常の学校生活に目を向けると、廊下や階段を走ったり、鉄棒やブランコのそばで鬼ごっこをしたりする姿が見られるなど、いつ事故が起きてもおかしくない様子が見られ、児童一人一人の安全意識が高いとは言えない状況にある。これは、児童が「安全の重要性」を知識としては理解していても、具体的な場面における判断・行動に結びついていないことを示唆している。つまり、安全意識における行動への移行に課題があると考えられる。

これらを踏まえ、安全教育は特定の単元や行事だけで完結するものではなく、教科における安全教育と、日常的・定期的な安全指導とを関連づけ、学校教育活動全体を通じて継続的・重層的に行う必要があると考え、本研究主題を設定した。

さらに、本研究では、安全教育、安全指導の実践を再構築し、児童の安全意識を行動にまで高めるためのアプローチを検討することを目的に、以下の仮説を設定した。

3 研究仮説

学校生活の様々な場面において、日常的に安全指導を行ったり、安全な環境を整えたりすれば、児童の安全意識が高まり、事故を防ぐことができるだろう。

【参考文献】

文部科学省『第3次学校安全の推進に関する方針』（2020）

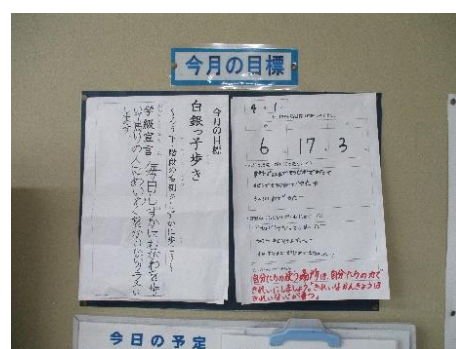
4 研究内容

- (1)運営委員会による生活目標の設定と評価の取組
- (2)保健委員会による熱中症予防クイズラリーとけが調べ
- (3)防災リーダーを中心にした防災集会とワンポイント避難訓練の実施
- (4)児童の遊び方や施設・設備の実態に即したスピード感のある安全環境づくり
- (5)熱中症予防を促す情報提供の工夫
- (6)技能教科（体育、家庭、図工、理科など）における事故防止の指導と支援

5 研究の実際

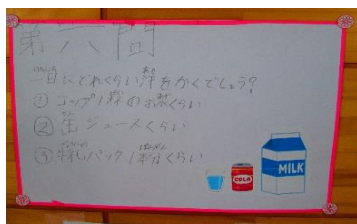
(1)運営委員会による生活目標の設定と評価の取組

本校では、生徒指導の中に安全指導を位置づけ、「日常生活における安全のために必要な事柄を理解させ、それをふまえた行動様式を身につける」ことを目標に掲げている。その具体的な実践の一つとして、6月の生活目標を「白銀っ子歩き～廊下・階段の右側をすずかに歩こう～」と設定し、各学級でさらに具体化した目標を立てて取り組んだ。月末には、各学級で◎○△の三段階による自己評価を実施し、成果と課題を話し合った。これらの評価内容は、運営委員の児童が集約し、昼の校内放送で発表することで、全校児童に対して振り返りと今後の行動改善を促した。放送では、「できたこと」と「できなかったこと」を具体的に示しながら、静かに安全に歩く行動を継続するよう呼びかけた。このように、児童自らが目標を立て、実施し、評価し、共有するプロセスを通して、安全意識を行動に結びつける学びが形成されつつある。今後も、児童の主体的な関わりを軸に、安全指導の工夫と改善を図っていきたい。



(2)保健委員会による熱中症予防クイズラリーとけが調べ

- ① 熱中症予防のための正しい水分の補給の仕方や熱中症になってしまった時の対応の仕方を保健委員会の児童がクイズにした。校内10か所に掲示したクイズを個人や友達と一緒に順路に従ってクイズに答えた。



- ② 本校のけがの実態を集計し、掲示物で知らせたり、ランキング形式で発表したりした。全校集会では、けがを予防するために自分たちができることを考え、全校児童に呼びかけた。今後もけがの予防対策を話し合い、活動を継続していきたい。



(3)防災リーダーを中心にした防災集会とワンポイント避難訓練の実施

5・6年生から計12名の防災リーダーを募集し、7月の防災集会で雷や暴風雨に関するクイズを出題した。全校児童に日頃の備えや安全かどうかを判断する力の大切さを呼びかけた。

年間4回のワンポイント避難訓練(地震)では、防災リーダーが担当場所で児童の一次避難の様子を見守り、ふり返りの時間に助言した。



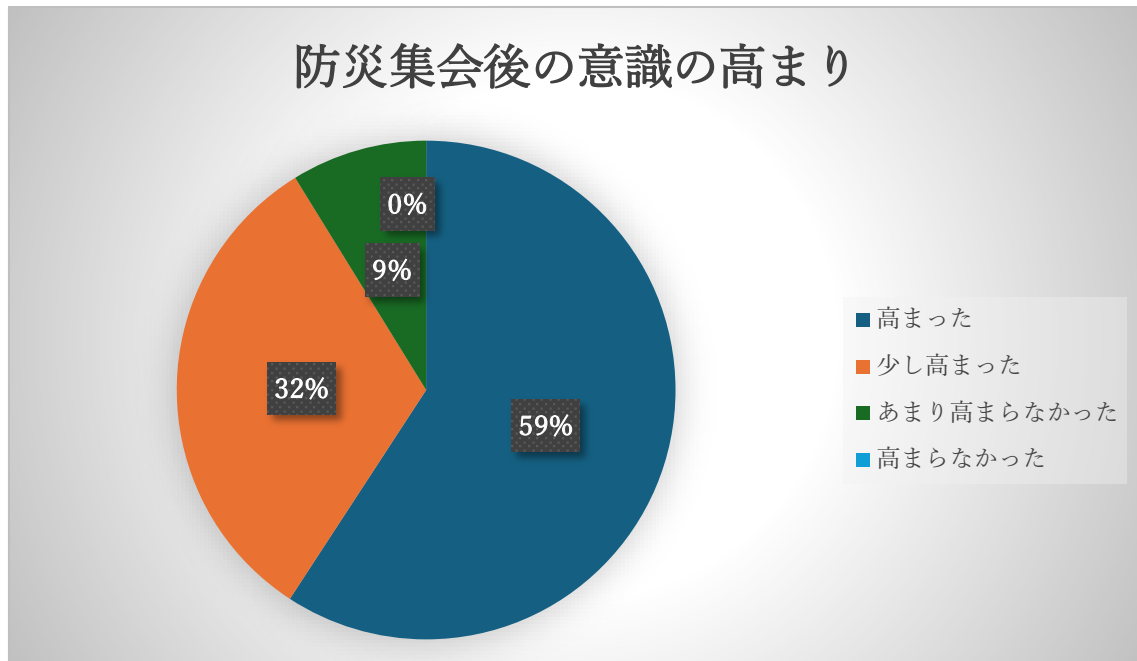
第6問
外は大雨です。何をはいて
避難する?

- A どうせぬれるから、サンダル。
- B ぬれてもかまわないので、はきなれたスニーカー。
- C 大雨だから、長ぐつ。



○防災集会のふり返り

〔1〕 雷、暴風雨に対する意識は、高まりましたか。



〔2〕 今後意識していきたいことは何ですか。

- A 急に冷たい風が吹いて空が暗くなってきたら、すぐに家に帰る。(75%)
- B 雷が鳴り始めたら、急いで頑丈な建物か車の中に入る。(60%)
- C 防災の放送が良く聞こえないときは、自分から情報を集める。(63%)
- D 台風の接近中は、飛ばされそうなものを中に入れ、雨戸や窓を閉める。(68%)
- E 避難指示（レベル4）が出たら、避難を始める。(63%)
- F 大雨で避難するときは、履き慣れたスニーカーを履く。(76%)
- G 避難するときは、ないと困る物をリュックサックに入れて避難する。(61%)
- H 洪水で避難するときは、長い棒などを持って、道路の真ん中を歩く。(55%)
- I 水がひざの高さになっていたら、避難せず、家に戻る。(74%)
- J ハザードマップで風水害に備えておく。(56%)

〔3〕児童の感想

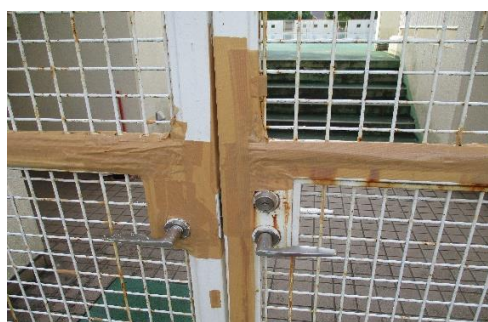
- ・ここら辺は、風水害があまり起きないから実感しづらいけど、避難しなくても大丈夫という考えはあまり持ってはいけないことが分かった。
- ・防災についてあまりよく知らなかったので、あまり関係ないと思っていたけれど、防災集会に参加して意識しようと思った。
- ・防災リーダーとして大切な情報を発信する側だったので、クイズの内容が頭に入った。ゲリラ豪雨などで急に災害が起こるかもしれないことを意識していきたい。
- ・クイズをやってみたら知らないことや間違っていたことが多かった。これからは、もっと雷や暴風雨の対策をしていきたい。

(4)児童の遊び方や施設・設備の実態に即したスピード感のある安全環境づくり

- ① 鬼ごっこに夢中になった児童が、遊具で遊ぶ児童と接触したり、片付けられた台に上って遊んだりするのを防ぐため、各学級で口頭による指導を行うと共に、簡易的な柵を設けた。



- ② 水泳学習の際、プール出入口の門扉のさびで裸足になった児童のけがを予防するため、ガムテープで応急処置をした。



今後は、防災リーダーを活用し、児童の目線で遊具の状態や遊び方を点検していく予定である。

(5)熱中症予防を促す情報提供の取組



6月より毎朝、児童昇降口前のラウンジと職員室前の廊下に熱中症の危険度を知らせる掲示板を設置した。予報を元に養護教諭が気温、湿度、暑さ指数を記入した。業間休みや昼休みには、体育主任が暑さ指数や危険度を放送で知らせ、外で遊べるかどうかを伝えたり、帽子・水筒を持参し、激しい運動を控えることなどを呼びかけたりした。

(6)技能教科（体育、家庭、図工、理科など）における事故防止の取組

- ① 家庭科では裁縫セット、図画工作科では彫刻刀を教師が一括して預かり、かぎのかかる部屋に保管した。
- ② 理科の薬品庫扉に塩酸や水酸化ナトリウム等の薬品名と液性を表示し、教師だけでなく児童にも分かるようにした。使用の際には直接手に触れないことや、目に入らないように安全眼鏡を装着することを指導した。目に入ってしまった場合は、水で洗い流すよう指導した。



6 成果と課題

【成果】

- ・安全指導を生徒指導、保健指導、防災指導などの観点から実施することにより、安全は、あらゆる場面で意識する必要があることを伝えることができた。
- ・生活目標、熱中症予防、防災集会等の運営や評価を児童主体で行うことで、安全

指導を通して児童同士の交流や安全意識の共有を図ることができた。

- ・技能教科で使用する道具や薬品は、使い方や管理方法を誤ると危険物になることを意識づけられた。

【課題】

- ・多岐にわたる安全指導や訓練等が表面的で形式的になっていないか、常に振り返る必要がある。
- ・安全指導や訓練によって得た知識・経験を生かして「命を守る」行動につなげるためには、日ごろから「人の話を聞く、返事をする、我慢する」等の規律ある生活習慣を身に付けさせる必要がある。